

紅葉（黄葉）の不思議

○ 秋に「もみじ」が赤く（黄色く）なるわけ

光合成・・・太陽からの光エネルギーを受けて二酸化炭素と水からデンプンと酸素をつくること

秋・・・気温が低下する・・・根の活動が低下する・・・吸収能力が弱まる
気温の低下に伴い空気は乾いてくる・・・葉の水分は蒸散しやすくなる
落葉樹は葉を落とすことによって低温と乾燥から身を守ろうとし柄の部分に離層組織を作る

・・・葉はしばらくは光合成を続ける・・・葉でつくられた糖分は離層によって移動でき

ず葉にたまる

・・・この糖分から赤い色素アントシアンが合成される

緑色のクロロフィルは徐々に分解される・・・アントシアンの赤が現れる

・・・もみじが赤くなる

イチョウ・エノキのようにアントシアンが作られない樹木もある

葉緑体にはもともとクロロフィルとカロチノイドが含まれている（カロチノイドは光合成を 助ける色素）

カロチノイドよりクロロフィルの分解が早く進むので黄色が現れる

○ 冬に備える里山の小鳥たち、 秋 日本にやってくる渡り鳥たち。

○ 「もみじと漢字」の話。

○ ・ 新月材（新月枯れ葉材）

- ・ 木材を乾燥させる意義

次回は12月14日「里山の冬支度」です。皆様のご来園をお待ちしています。

